

2. 今後の学術研究体制における大学共同利用機関の役割に関する所見

大学共同利用機関の位置付け・役割、コミュニティなどのニーズを反映するための方策、共同利用・共同研究機能の向上のための方策

V. 産業界との連携強化

最先端技術開発を産学でいかにして推進するかが課題

知の創造の優先による技の創造の空洞化:

大学: 技の創造の衰退、産業界: 基幹産業の国際競争力の低下

先端加速器科学技術推進協議会 (産学連携)

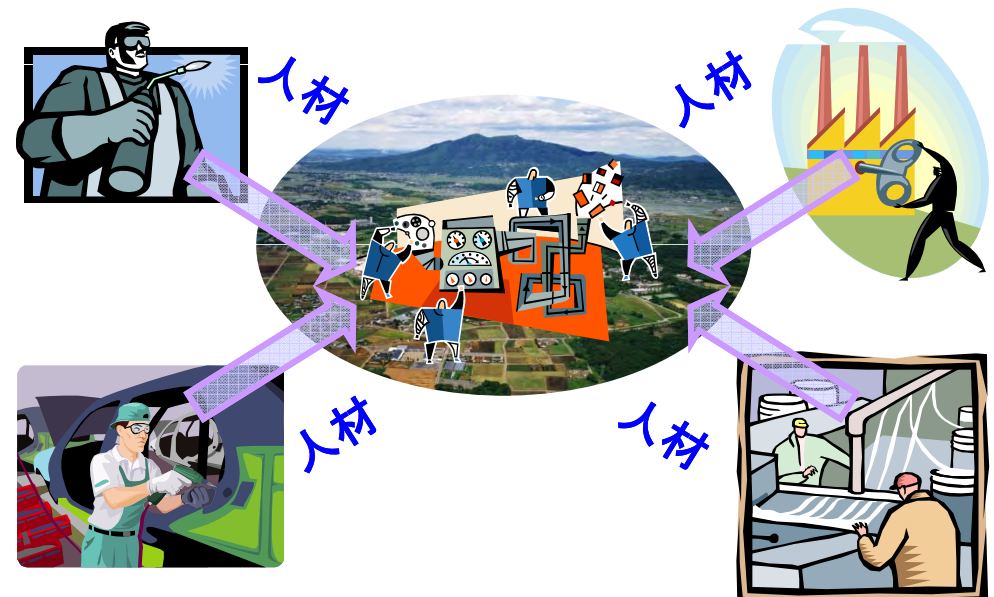
設立総会

2008. 06.11



60社以上企業と30大学・研究機関が参加

新しいWorkshopの設立



3. 大学との教育上の連携の在り方に関する所見

(1) 法人としての全体方針

I. これまで、共同利用・共同研究の幅広い推進によって大学院生の教育、若手研究者の育成に寄与してきた

II. 放射光施設、測定器開発室、加速器施設の一部に教育用ビームラインや実験装置を整備して、学部・大学院生が自発的に研究を企画・実施できるようにする

→ 例えば12 GeV陽子シンクロトロンの特設ビームラインにおける実験で、現在の研究者コミュニティを代表する多くの研究者が育成されたことから、大いに重要である

III. 双方向サバティカル制度の導入により大学、大学院教育に参加
→ 具体化を急いでいる

IV. 各種サマースクールを大学との連携で実施する。

→ サマーチャレンジ(学部3年生用)

→ OHO加速器スクール(大学院生、企業者用)

→ CERN(欧州合同素粒子・原子核研究所)サマースクール(各大学から修士院生を派遣)

→ その他の国際サマースクール

大学3年生用 プログラム

- 各大学から教員が参加
- 各大学から作文のみで
80名選ぶ

没頭する この夏

大学生のための素粒子・原子核スクール
ガンマ・チャレンジ
宇宙、物質、生命—21世紀の謎に挑む
<http://ksc.kek.jp/>

世界トップレベルの研究に9日間没頭する



宇宙・物質・生命
—21世紀の謎に挑む!

平成21年8月20日(木)~28日(金)

対象 ▶ 主に大学3年生
参加人数 ▶ 60人程度
参加費 ▶ 無料 (交通費、宿泊費をサポートする予定)
開催 ▶ KEKつくばキャンパスおよび東海キャンパス
申込 ▶ 各大学推薦する教員と、本人推薦の小グループに分かれた申込
申込期間 ▶ 5月末日
申込先 ▶ 〒305-0801 茨城県つくば市大勢1-1
高エネルギー加速器研究機構 サマースクール
E-mail: ksc@kek.jp
TEL: 029-864-5307
FAX: 029-864-0321
©申し込み方法など詳細はWeb

われわれの身の回りは、様々な謎に満ちている。
子供は毎日自然に触れ、「なぜ?」を発し、
新しい知識を獲得しながら成長する。
人は多くの謎に遭遇し、
「なぜ?」を理解しようとする。

「理論に挑む」
「実験に挑む」
「発表に挑む」

21世紀の謎に迫るため
この夏、没頭する!

3. 大学との教育上の連携の在り方に関する所見

(2) 総合研究大学院大学の基盤機関としての現状・課題

- 総合研究大学院大学の高エネルギー加速器科学研究科(3専攻)は、加速器科学という共通の理念の下、同一キャンパスに設置された利点を生かし、カリキュラムの共通化やFD、教育支援等、実質的にも3専攻の一体的・有機的な運営を行っている。
- 本研究科は多くの留学生を受け入れ、また日常的に基盤機関の国際的研究環境に接することにより極めて国際化の進んだ環境を提供できている。(13/57)
- 大学院生への経済的支援は必須のものとなりつつあるが、学生数及び支援費用の増加などから財源の確保のための各種制度、支援体制の充実が望まれる。
- 本研究科の大学院生はほぼ全員が基礎分野の研究者を目指しており、博士号取得後のキャリアパスの開拓支援の充実が必須である。

3. 大学との教育上の連携の在り方に関する所見

(3) その他各大学等との連携による学部教育・大学院教育の現状・課題

I. 各大学と包括協定を結んで教育連携を検討
→ 広島大、名古屋大、東北大

II. 各大学における連携講座枠の拡大が必要
(機構に割り当てるようなシステムはできないか?)